

魅力ある自治連 活動事例集

米子市自治連合会

令和8年3月発行

はじめに

私たちのまちは今、大きな転換期の中にあります。少子高齢化、ライフスタイルの変化、そしてかつてない規模で発生する自然災害。私たちを取り巻く課題は山積みであり、一つひとつの自治会が抱える悩みも、年々深まっているのが現実です。

しかし、その中でも、地域の活性化のため、問題解決のために地域で考え動くことで安心・安全な地域を実現できると信じて知恵を出しあっています。

ここで紹介する活動は、各地域で「自分たちの地域をもっと良くしたい」と願い、汗を流した方々の挑戦の軌跡です。迷いながらも一歩を踏み出し、失敗を恐れずに対話を重ねて実現した地域の活動、また代々継承されてきた事業を地域で今も大事に取り組んでいる活動です。

「うちの地域でも、何かできるかもしれない」

「このアイデアなら、地域の新たな取組みに発展させることができるかもしれない」

この一冊が、皆様の心にそんな小さな火を灯すきっかけになることを願っています。一つの成功事例が別の地域へと繋がり、やがて米子市全体の大きな力へと変わっていく。そんな「共助の連鎖」こそが、私たちが目指す地域の未来です。

私たちは決して一人で活動しているのではありません。連合組織という大きな絆を活かし、互いに学び、支え合いながら、次世代に胸を張って引き継げる「住んでよかった」と言える地域を、共に築いていきたい、地域の魅力発信をして活性化させていきたいと考えています。

このような思いから第1弾！事例集を作成していますので、今後の地域活動の参考にしていただければ幸いです。

令和8年（2026年）3月

米子市自治連合会 活性化委員会

目 次

I. 事例集

1 啓成地区自治連合会	1
2 明道地区自治連合会	3
3 就将地区自治連合会	4
4 義方地区自治連合会	5
5 住吉地区自治連合会	6
6 車尾地区自治連合会	7
7 加茂地区自治連合会	10
8 河崎地区自治連合会	11
9 福生東地区自治連合会	12
10 福生西地区自治連合会	14
11 福米東地区自治連合会	15
12 福米西地区自治連合会	17
13 彦名地区自治連合会	18
14 崎津地区自治連合会	19
15 大篠津地区自治連合会	21
16 和田地区自治連合会	22
17 富益地区自治連合会	25
18 夜見地区自治連合会	26
19 成実地区自治連合会	28
20 尚徳地区自治連合会	29
21 永江地区自治連合会	32
22 五千石地区自治連合会	33
23 巖地区自治連合会	36
24 春日地区自治連合会	37
25 大高地区自治連合会	39
26 県地区自治連合会	40
27 淀江地区自治連合会	41
28 宇田川地区自治連合会	43
29 大和地区自治連合会	44



活動紹介

団体名（啓成地区運動会実行委員会）

活動の名称		啓成地区運動会																								
取 組 内 容	啓成地区では、運動会が平成17年10月に復活しました。 その間、台風と新型コロナウイルス感染症拡大のため2回の中止がありました。 運動会の実施は、運動会実行委員会（大会長：公民館長、委員長：自治連合会長）の他、各組織からの委員を集め最終決定をしています。 大会役員は各自治会の会長、体育部長他、民生児童委員協議会の有志、東山中校生などで役割分担をしています。																									
	得点競技のボール蹴り・玉入れ・グラウンドゴルフリレー・むかで競走・綱引き・防災水入れリレー・年代別リレーで、総合優勝を目指して競い合います。 新型コロナウイルス感染症拡大以降は、ごほうびちょうだい（就学前の幼児）、玉入れ、宝探し（70歳以上）、であい・ふれあい・たすけあい（子ども会競技）、綱引き、防災水入れリレー、350オリレーでの競技種目で、12時で閉会です。 得点種目のブロックからの選手選抜は、各自治会の世帯数割合による人数で選手集めをするなどして調整しています。																									
	ブロック別 白組（博三ー1・博三ー2・博四） 緑組（角二・朝日一・朝日二・糀二東・糀二西・角一上・角一下） 水色組（富士見・富士見一・富士見二） ピンク組（錦一・錦二ー1・錦二ー2） オレンジ組（日ノ出・日ノ出一・米原三・東福原一） 赤組（住之江・東山・勝田東・勝田西） 青組（博一・博二） 得点種目配点 <table><tr><td>玉入れ</td><td>1位</td><td>100点</td><td>～</td><td>7位</td><td>40点</td></tr><tr><td>綱引き</td><td>1位</td><td>200点</td><td>～</td><td>4位</td><td>70点</td></tr><tr><td>防災水入れリレー</td><td>1位</td><td>100点</td><td>～</td><td>7位</td><td>40点</td></tr><tr><td>350オリレー</td><td>1位</td><td>200点</td><td>～</td><td>7位</td><td>40点</td></tr></table>			玉入れ	1位	100点	～	7位	40点	綱引き	1位	200点	～	4位	70点	防災水入れリレー	1位	100点	～	7位	40点	350オリレー	1位	200点	～	7位
玉入れ	1位	100点	～	7位	40点																					
綱引き	1位	200点	～	4位	70点																					
防災水入れリレー	1位	100点	～	7位	40点																					
350オリレー	1位	200点	～	7位	40点																					
課 題	350オリレーでの小学生男女各1名の選手選抜はブロックでの小学生数に大きな差異があり、リレーチームを組むのも困難なブロックもあり、競技種目の変更も視野にいれなければならないとなっています。																									



令和7年 9月28日(日) 啓成地区運動会

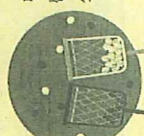
啓成公民館の歌

一、 東風吹く大地は 緑の川に
 雲が人々の心を 照らす
 東風吹く大地は 緑の川に
 雲が人々の心を 照らす

二、 東風吹く大地は 緑の川に
 雲が人々の心を 照らす
 東風吹く大地は 緑の川に
 雲が人々の心を 照らす

三、 東風吹く大地は 緑の川に
 雲が人々の心を 照らす
 東風吹く大地は 緑の川に
 雲が人々の心を 照らす

啓成公民館
 啓成地区自治連合会
 公民館運営協議会 体育部

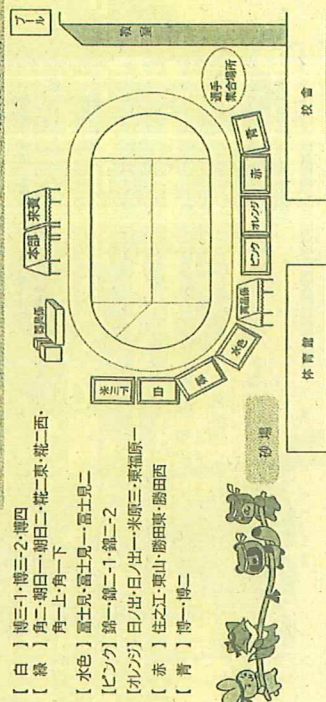


啓成地区運動会プログラム

★は得意競技

開始時間	種目	出場者
1 8:45	開会式 ランチョ体操	全員
2 9:00	ごほうびちょうだい	就学前の幼児
3 9:10	★玉入れ (ブロック対抗)	年齢制限なし 男性8名 女性8名
4 9:40	宝さがし (個人)	男性70歳以上 女性70歳以上 各自治会で10名以内 事前に申し込みをされた方
5 10:00	であいふれあい・たすけあい (子ども会競技)	小学1～6年生
6 10:20	★綱引き (ブロック対抗)	中学生以上 男性10名 女性5名
7 10:50	小学生スポーツツバレード 啓成子ども万灯競技 米子がいな太鼓啓成子ども連	スポーツ少年団・スポーツクラブ・ 子ども万灯・がいな太鼓啓成子ども連 の皆さん
8 11:05	★防災水入れリレー (ブロック対抗)	年齢制限なし 男性5名 女性5名
9 11:20	★350オリレー (ブロック対抗)	①～②小学1～6年生 ③～④9名の出走順は自由 中学生～一般男女(内女性3名以上) 選手年齢合計350才以上になること ※選手年齢合計に小学生は含めない
10 11:45	米子盆踊り	全員
11 12:00	閉会式	全員

※ 各開始時間は、当日の進行状況によって前後する可能性があります。
 ※ 選手の方は出場種目の2種目前に、集合場所へお越しください。



活動紹介 団体名(明道地区自治連合会)

活動の名称	「シニア世代活躍応援事業」の展開による地域活性化				
取 組 内 容	「住んで楽しいまち」づくりを目指し活動している中で、高齢者の皆さんが生き生きと活躍する場づくりが課題となっていた。そのような中、令和3年度から米子市の敬老事業費補助金を敬老事業以外の高齢者事業に活用できる自由度の高い補助制度に見直された。本制度変更につき、地域の各団体と共に地区社協と敬老事業のあり方を検討した結果、従来行ってきた敬老祝賀会は止め、祝賀会に当てていた資金を「高齢者が主体となって進める事業への補助」と「敬老対象者への記念品」に使用することとした。あらたな事業の運用状況は下表に示すように良好で、各団体の活動は活発に行われている。 ----- 【実績表】 実施件数（実施主体） 実施内容 *実施主体の略字は次のとおり⇒(自)自治会、(老)単一自治会の老人会、(婦)婦人の会、(協)明道地区社会福祉協議会				
	高齢者の集いの場事業	2件(自・婦) 講演・いきいきサロン	3件(自2・婦) 環境美化活動・講演2	4件(自2・婦2) フレイル体操2・講演・音楽・	6件(自3・婦2・老) 屋外研修・フレイル体操3・料理教室・講演会・
	高齢者の防災啓発事業				1件(自) 講演(単一自治会)
	世代間交流事業	2件(自・老) 地蔵祭り 餅つき	4件(自・協・婦・老) 地蔵祭り・GG大会 ポッチャ・餅つき	4件(自2・協・老) 地蔵祭り・町民運動会・GG大会・餅つき	5件(自2・婦・協・老) 地蔵祭り・町民運動会・eスポーツ・GG大会・餅つき
	地域のサポーター育成事業	1件(婦) 講演			
	単一自治会の敬老事業			1件(自) 屋外研修	
	地区社協の敬老事業	1件(協) 記念品贈呈	1件(協) 記念品贈呈	1件(協) 記念品贈呈	1件(協) 記念品贈呈
	(計)	6	8	10	13
課 題	現在は各自治会単位また団体単位で事業が行われ参加者が固定化する傾向にある。事業の参加者を増やしていくため、地域全体、また複数地域が参加するような事業展開が求められている。				

活動の名称	新加茂川清掃活動について
取 組 内 容	就将地区自治連合会は清掃活動に力を入れており、春の城山清掃、秋の新加茂川清掃と取り組んでおります。 その中の新加茂川清掃活動をご紹介します。実施は11月の第2日曜日に開催、清掃区間は米子コンベンションセンターから深浦橋間の彫刻ロード周辺で作業を行います。作業区間は愛宕橋を中心に二班に分けて全体的に作業ができるようにしています。 秋の新加茂川清掃は平たんな場所の作業が多いこともあり親子の参加も多く、会話も弾み和気あいあいとした雰囲気がみられます。親子で参加される方にはコンベンションセンターから愛宕橋までの区間の清掃をお願いし、活動中にお互い交流ができ、ワイワイガヤガヤと楽しみながら作業ができる場になるよう工夫をしています。 多くの子ども達が関心を持って地域活動に参加してくれることを願って今後も継続して行っていきます。   
課 題	

活動の名称	ぎほうこども防災キャンプ
取 組 内 容	義方公民館では、児童が放課後や週末に気軽に集まり、スポーツや文化活動を学べる「アメージングスクール」という取組があります。その活動の中で災害について学んだり、体験したりする取組ができないかということで児童が災害から自分の身の安全を守るために必要な知識を学習したり、避難所での宿泊体験をする「ぎほうこども防災キャンプ」を企画しました。 【体験内容】 ・実際に避難所として使用される公民館での宿泊体験（フロアの上に段ボールを敷き、寝袋やタオルケットにて就寝） ・炊き出し訓練で防止食を食べ、防災ゲームや防災グッズの作成 ・翌朝の朝食後、水消火器にて初期消火訓練の実施 「災害時は地域で協力し助け合うことが重要」そのため日頃からの近所付き合いや自治会活動が大切で、「防災への第一歩は挨拶すること」と伝え、どれだけの児童が地域を支える防災リーダーとなってくれるか見守っていきたい 【アメージングスクールの紹介】 完全学校五日制が始まってから、こども地域活動支援事業「週末こども教室」として囲碁将棋教室、英語教室、茶道教室、書道教室、子ども会連合会のお世話でものづくり教室、親と子の化石採取教室、食生活改善推進委員会の料理教室など様々な教室が行われ、こどもの居場所づくりを継続しており、令和2年から様々な教室をまとめ「アメージングスクール」として平日の放課後・土曜日に活動を行っている。
課 題	・「防災キャンプ」への参加募集の仕方の工夫 ・こども達に「楽しかった」と思ってもらえるような企画立案 ・市など関係機関との連携強化によって活動の幅が広がる。今後の活動に活かしていくこと

活動の名称	住吉公民館祭
取 組 内 容	毎年恒例となっている公民館祭は、地域の交流と活力を育む大切な行事として、朝から会場には活気が満ち、幅広い世代の地域の皆さんが集いました。住吉地区の保育園・学校から多くの生徒さんらが参加し、地域とのつながりを深める貴重な機会となりました。 特に、後藤ヶ丘中学校茶道部による茶席では、心を込めてたてられたお茶が振る舞われ、落ち着いた和の空間が広がりました。(①) 生徒さんの礼儀正しい立ち居振る舞いが好印象を与えていました。 ①  さらに、米子警察署のご協力による自転車シミュレーター体験コーナー(②)では、子どもたちが楽しみながら交通安全を学ぶ姿が見られました。加えて、地区内の自治会単位での出展も盛んで、包丁・ハサミ研ぎサービス(③)や地域野菜の販売など、暮らしに身近な催しも多くの人に利用され、地域の皆さん同士の交流の場として大きな役割を果たしました。 ②  ③  多くの地域の方々にお越しいただけると、隣接公園・広場の一部を駐車場にし、交通安全協会住吉支部による交通整理等のご協力も得て開催しています。 このように、公民館祭は地域の多様な力が結集した、まさに地域一体のイベントです。多くの地域の皆さんが足を運び、笑顔と交流があふれる一日となり、今年も大変盛況のうちに幕を閉じました。地域の温かさとのつながりを再確認できる、充実した催しとなりました。
課 題	公民館祭は毎年多くの地域の皆さんが参加する活気ある行事ですが、一方で同好会参加者の減少という課題もあります。特に次世代の参加が少なく、各活動の継続性に不安が生じています。この状況を改善するためには、同好会の魅力をより広く伝え、地域の人と人との触れ合いを促す取り組みが求められています。例えば、公民館祭において、日頃から公民館で活動している各同好会による成果発表(④)や作品展示が、より多くの来場者の目を引くように工夫し、地域文化の豊かさを実感させるようなものとなり、世代を超えた交流イベントを企画することができれば効果的です。公民館祭をきっかけに地域内のつながりを強め、多様な人々が参加したくなる環境づくりを進めることが、今後の地域の活性化につながる秘訣と考えられます。 ④ 

活動の名称	車尾地区要支援者安否確認訓練
取 組 内 容	車尾地区では、12 年前に地域防災組織を設立し、1 年に 1 回程度地域全体を対象とした防災訓練を実施しております。その中で、災害において、避難等に係る支援が必要な者（以下要支援者という。）の自治会による把握に努めるとともに、8 年前から防災訓練時に要支援者への安否確認訓練を併せて実施しています。この訓練は、まず事前に各自治会で要支援者候補者名簿を作成することから始まります。作成に当たっては敬老会名簿、民生児童委員や在宅福祉員の日常の活動記録、自治会名簿等を参考にしながら、地区社協主催の「見守り連絡会」において、これらの関係者の話し合いにより要支援者候補者を選定し、名簿を作成します。実際の訓練は、2 人 1 組で、対象者の自宅に抜き打ちで訪問して、聞き取り調査をします。調査は 5 年間の質問項目に○×（要支援者チェックリストー別掲参照）するだけの簡便なもので、1 人 5 分程度で終わります。そして、この調査結果と対象者との会話の状況等を踏まえ、総合的に要支援者を認定しています。突然の訪問なので返答を拒絶されるのではないかと心配する意見もありますが、これまで概ね良い印象を持っていただいております、「よう来てごしなったな」との感謝の言葉で訪問した者がかえって恐縮することが多いようです。同じ人の家にも毎年訪問していますが、1 年経過すると状況が変わる人もおられ、絶えず名簿の更新が重要です。 自治会の存在意義が問われる昨今ですが、この名簿作成は自治会にしかできませんし、自治会の最も重要な役割と考えています。自治会の有様は様々ですが、車尾地区では、住民が安心して健康に生活できる環境整備に今後も精力的に取り組んでいこうと考えています。
課 題	・自治会によって住民の年齢構成が異なることと取組み意義の差異により、要支援者の認定基準に相違がある。 ・現在の自治会の体制を踏まえれば、要支援者の避難支援や避難を促す連絡等が自治会でできるとは考えられない。今後は、啓発事業にとどまらず災害時の避難行動等の支援につながるような実践的な訓練に取り組んでいきたい。

調査票

安否確認チェックシート (区 班) 訪問者氏名: . NO.

質問項目	氏名	日常的に一人で外出している	日常的に2階で生活している。又は階段の上り下りをしている	15分位続けて歩ける	転倒の不安はない	自分でゴミを出している(×の場合は誰が出しているかを記入)	不在	判定	特記事項
1									
2									
3									
4									
5									
計									

<判定等基準>

質問項目については、・できる又はしている場合は○ ・できない又はしていない場合は× ・マダラ状態であれば△を記入してください。

判定については、1ー自分で避難所に移動できる。 2ー住民の簡単な手助けがあれば、避難所に移動できる。
3ー避難所への移動は危険があるが、2階等への避難は可能である。 4ー避難は困難である。 1～4を記入してください。

9

活動の名称	加茂地区夏休み子ども祭り 2025	
取 組 内 容	地区内の各団体がそれぞれ企画・連携し、地区内の子どもたちに夏休みの思い出となる体験をしてもらおうと取り組んでいます。	
	運営委員会役員・女性部 自治連合会 民生児童委員協議会 加茂小学校 PTA	はたらく車大集合 保護者の休憩コーナー その他全体の手伝い
	青少年育成会 加茂中学校中学生ボランティア	かきごおり 焼きそば フライドポテト チョコバナナ
	子ども会育成会	おかしつかみ ビンゴ大会
	消防団加茂分団	近隣地区消防団の協力を得て 消防車でパトロール乗車体験
	加茂っ子クラブ	工作コーナー プラバンでストラップづくり
	はたらく車大集合のコーナーは 米子市地域振興課・防災安全課、米子市水道局、自衛隊米子駐屯地、米子警察署（両三柳交番）、建設会社（みたこ土建等）の協力を得て実施。 ☆猛暑の中、日ごろ公民館には来ないような若い家族連れなど、非常に多くの住民の参加がある。中学生ボランティアは、青少年育成会の協力で企画や採算、準備など自分たちで行っている。	
課 題	○夏休みの猛暑の時期の実施のため、熱中症やスタッフの疲労の問題がある。 ○コミュニティスクールの関係もあり中学生ボランティアの参加が増えてきているが、それに対応できるスタッフが少なく、また衛生上の懸念もあり、どこまで自主的な活動を応援できるかが悩みどころ。こちらが考えて、これをやってほしい～では人が集まるかどうか。	

活動の名称	1.河崎伝承芸能フェスティバル 2.河崎花笠踊り 3.河崎校区大運動会
取 組 内 容	1.河崎伝承芸能フェスティバル 河崎伝承芸能フェスティバルは、平成 17 年に、以前夏に行っていた事業の中止に伴い新たに地域の歌や盆踊り寸劇などの演芸や同好会の発表の場として毎年夏のイベントとして開催しています。各自治会が協力して準備、運営、撤収を行っています。近年は、ダンスサークルなどの様々な出演があり賑やかな夏の夕べの催しとなっています。 2.河崎花笠踊り 河崎花笠踊りは、昭和の初め近隣の集落で踊りを競い合っていた頃、河崎代表で出場し優勝した踊りを地域の有志が集まり平成になって再興したものです。伝承の踊りとしてイベントや施設慰問で紹介されています。 3.河崎校区大運動会 平成の中頃、秋の運動会に参加者が少なく盛り上がり欠けるものとなっていた。準備も、自治会と、小学校で重複することもあり協力し合っで行うことになった。結果として、負担は少なくなりぎやかになり、近所の子どたちと知り合いになれた。 
課 題	1.河崎伝承芸能フェスティバル 猛暑による準備時間調整 開催時期調整 出演者の固定化・高齢化 役割の固定化 2.河崎花笠踊り 演技者の高齢化 引退による参加者の減少 3.河崎校区大運動会 運営委員が小学生の演技を見られない

活動の名称	福生中学校ボランティアクラブの結成と運営
取 組 内 容	1. 活動の背景・目的 地域課題と結成のきっかけ（令和7年2月館報より） 新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、地域活動における役員不足、特に青少年育成会での担い手不足が深刻な課題となっていました。また、地域全体でコミュニケーション能力や人間関係の希薄化という「後遺症」も感じられていました。 この課題に対し、福生中校区で始まった**コミュニティ・スクール（CS）**の活動に便乗し、「地域活動の担い手育成」と「中学生の活躍の場創出」を目指し、中学生の力を借りることを計画しました。 クラブ結成の目的（令和7年2月福生東地区の公民館報より） 「福生中学校ボランティアクラブ」の結成目的は、以下の相乗効果を狙っています。 （1）地域の担い手育成：中学生に運営側としての立場や姿勢を教え、地域の担い手としての自覚を高める。 （2）コミュニケーション能力の育成：大人、中学生、小学生といった多世代交流を通じて、今の時代だからこそ大切な「顔を合わせてコミュニケーションを取る大切さ」を感じてもらう。 （3）波及効果の期待：多感で成長著しい中学生にボランティアの輪を広げることと、前後の年齢層の青少年にも活動の輪を波及させる。 2. 具体的な活動内容と実績 試行期間（令和5年度） ・ 中学校との連携：中学校の校長先生、学校コーディネーターと協力し、青少年育成会の行事にボランティアとして活動してくれる生徒を募集。 ・ 活動：運営側としての立場や姿勢を教えながら、生徒たちと一緒に地域行事を楽しみ、活動の「形」を構築した。 正式活動（令和6年度～） ・ 正式結成：「福生中学校ボランティアクラブ」として正式に結成。クラブ員はお揃いのピンクのTシャツを着て活動。 ・ 活動例： ○ 納涼祭・公民館祭：焼き鳥や焼きそばの販売、ソーラン節を披露し、行事を盛り上げる。 ○ 育成会行事：小学生の「先輩」として活動し、小学生が困っている時や分からない時に駆け寄って教えたり、一緒に遊んだりしている。

	- 活動から得られた手応え: 中学生ならではの斬新なアイデアやパワーが地域行事に活力を与え、小学生と中学生の交流から多世代の繋がりが深まることを実感している。 3. 評価と今後の展望 受賞（令和7年7月福生東地区の公民館報より） 実績: これまでの活動が評価され、日本海新聞ふるさと大賞 地域貢献賞に選出・表彰された。 感謝: この受賞は、多くの人々の支えと、育成会役員の協力があったからこそ達成できたものであり、「人との繋がりが大切だ」という実感を深めた。 今後の展望（令和7年2月福生東地区の公民館報より） - 来年度以降もクラブ活動を継続し、「ピンクのTシャツ」のクラブ員と共に、福生東地区を盛り上げ、笑顔いっぱいの地域にしていくことを計画している。 - 今夏より、クラブを巣立ち高校生となった2名が、福生東公民館ユースパートナーに任命され公民館のSNS運用を手がけている。将来的には公民館事業や地域活性化の検討に加わり活動をしていく予定である。このように福生中学校ボランティアクラブの活動が、中学校を卒業しても地域と関わりをもつ生徒が増える一助になっている。
課 題	

活動の名称	福生西ふれあい夏まつり
取組内容	この夏まつりは、地域の宝である子どもたちを主体としたまつりを開催し、郷土愛を育みながら伝統文化の継承と世代間交流、そして楽しい地域づくりを目指すために平成 19 年より始まった催し物で、主催は福生西夏まつり実行委員会、福生西公民館運営委員会と福生西自治連合会が行って、毎年 7 月に開催しています。 この祭の最大イベントに子ども神輿と大人の神輿（温泉神社所有）が、皆生海浜公園を出発して皆生温泉旅館街を練り歩き、再び皆生海浜公園に戻る道順で行っていたが、途中で大人の神輿は担い手不足に陥り現在は中止、子ども神輿のみは順路を短縮して行っています。 開催にあたっては実行委員会を開催し総勢 41 名により計画実施しています。 子ども神輿が二基あるが、傷みがひどいため令和 7 年度に自治連合会が中心となり約一か月をかけて修復した。 
課題	①開催時期が 7 月のため熱中症等を考え時期の変更について協議している。 ②高齢化の加速とともに子どもたちの減少がとまらない。 ③地域の活性化のためにも大人神輿の復活が待たれる。

活動の名称	音楽のゆうべ
取組内容	平成13年に福米東小学校の金管バンド、福米中学校の吹奏楽部、米子北高等学校の吹奏楽部の3校が出演する「吹奏楽の夕べ」として始まり、その後、平成20年に「音楽のゆうべ」に名称を変更し、令和7年度で25回目を迎えた。長年にわたり地域住民と学校関係者が協力しながら育ててきた、地域に根差した音楽行事。 音楽のゆうべを通じて、多世代交流を促し、地域の文化活動の活性化に繋がっている。地域の大人たちからの拍手と声援は子どもたちにとって今後の活動の大きな励みとなり、子どもたちの学びと成長を地域が応援する機会を創出している。フィナーレの3校合同演奏は世代を超えてひとつの音を作り上げる感動の瞬間であり、地域全体が心をつなげる象徴的な場面となっている。 また、小学校の金管バンドの指導を中学校の吹奏楽部の先生が行っていることで、技術の上達だけではなく、中学校・高校の音楽活動へスムーズにステップアップできる環境づくりにも繋がっている。
課題	長年、7月に福米東小学校の体育館で行っていたが、冷房設備のない小学校の体育館での開催は年々厳しさが増しており、昨年度から会場を産業体育館へ変更した。しかし、当該施設はスポーツイベントによる予約が優先されており、文化行事の開催には予約が非常に困難な現状がある。開催時期の見直しも検討したが、3校のスケジュール調整も難しい。 地域コミュニティの絆を育てる重要な場となっている行事なので、地域のバランスある活動推進の観点からも、公共施設利用の優先予約も、今後の見直し課題として図っていく必要がある。また、このような現状を知ってもらい、小学校や中学校に冷房設備導入の検討をする機会にもなってほしい。 地域の音楽文化を育て、次世代へ繋ぐかけがえのない行事として今後もその価値を守りながら、時代に即した改善を行い、より多くの人々に愛されるよう継続していきたい。そのために、準備や運営を担う人材の世代交代に向けて、ボランティアスタッフの育成と運営体制も強化したい。



活動の名称	納涼大会	
取 組 内 容	福米西地区では、小・中学生が夏休みに入った7月下旬の土曜日に納涼大会を開催しています。子どもから大人まで世代を超えて交流し、地域に伝わる「福米音頭」の踊りを次世代に継承し、地域住民の連帯感・親睦を深めています。 模擬店では焼きそば、フランクフルト、焼き鳥、かき氷、綿菓子などが出店され、買い求めるのに行列ができるほど大人気です。 子ども会育成会による無料のゲームコーナーもあり、子どもたちは楽しんでいます。 また、中央に建てた櫓を囲うように輪になって「福米音頭」を踊ります。2週間前には踊りの練習会もするので、本番ではみんな上手に踊ります。 最後のフィナーレは、打ち上げ花火です。間近で上がる本格的な打ち上げ花火は名物となっていて、夏の夜空を感動的に彩ります。 この福米西地区で育った子どもたちが、大人になって、子どもの頃夏にはこんなお祭りがあって楽しかったと思い出してくれるようなイベントを地域一丸となって続けて行きたいと思います。	 みんなで「福米音頭」を踊ります  打ち上げ花火でフィナーレ!!
課 題	近年の夏の異常な暑さで、人が密集する状況では熱中症の危険があり、夏の屋外での催しについては検討する必要がある。また、スタッフも高齢化していて、次世代を担う人材の発掘も課題となっている。	

活動の名称	彦名じげおこし芸能大会
取組内容	彦名じげおこし芸能大会は昨年度（令和 7 年）で 27 回目を迎えた彦名の夏祭りです。盆明けの土曜日の午後 6 時から 2 時間半。カラオケ、ジャズダンス・弾語り・フラダンス等幅広いジャンルの出演者で観客を魅了しています。オープニングはがいな太鼓で盛大に始まり、がいな万灯でフィナーレとちょっとした「ミニがいな祭り」の様相を程しています。彦名地区自治連合会では 2 年前よりバザー（焼き鳥・かき氷）で自治会長全員が参加しています。剰余金は忘年会の補助金として使用しています。 コロナ禍以前は、地元住民の出演者も多かったのですが、近年は町外の出演者の中にポツポツ町民がおられるという現状です。また、高齢化の波はさけられない中、若者がもっと参加出来る場にしていかないと続けることが困難だと考えています。
課題	・ 地元住民の出演者の発掘 ・ 役員の自主的な参加（バザー） ・ 若者にささる演出 ・ 運営資金の捻出

活動の名称	崎津 1 区 大注連縄奉納
取 組 内 容	1、歴史 江戸時代に渡村（境港市）から移住した崎津一区の先祖の人が、左義長（とんどさん）に神輿の代わりに大注連縄を大崎神社に奉納したのが始まりと伝えられています。 2、大しめ縄の構成 胴に子 3 個で構成される。ぶら下がる子の重さが 1 個 33 kg あり、全体で約 3 0 0 kg となり、使用する藁が 2 0 0 0 束である。 3、奉納 注連縄は 1 0 年は持つと思われるが、1 0 年も経つと世代が変わり技術の継承が難しくなるため 4 年に 1 回としている。 奉納当日は、各家庭（外孫も含む）の幼女の名前を書いた幟を注連縄にさして町内を練り歩き神社に奉納します。（良縁に恵まれますように） 奉納の時は一区在住の小さなお孫さんから、一区が里のお孫さんも沢山集まって来られます。 4、作業工程 ①－ 1 胴の作成（崎津一区集会所） ①－ 2 子の作成（崎津一区集会所） （3 0 人程度の住民が小さな藁の束を整える作業が約 4 日間必要） ②胴のより（崎津一区遊園地）3 0 人から 4 0 人の住人が集合 ③よりが終われば集会所に移動する ④子の作成 3 個終了（1 つの子の重量は 33 kg） ⑤胴と子をドッキングさせる ⑥化粧縄などで化粧仕上げをして完成
課 題	5、思い（未来に向けて） 今までは大人のみで取り組んでいましたが、今後は中学生ぐらいから作成に携わってもらい、協力の和を広げていきたい。

